



の | み | が | わ

2006年2月6日発行(通算第40号)

連絡先 〒146-0085 大田区久が原4-19-24

発行 大坪庄吾方 呑川の会

呑川の会 e-mail s.ootubo@nifty.com

呑川の会 HP <http://homepage3.nifty.com/nomi/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



近づく 「大田区第5回エコフェスタ」 ～地域から考える地球の未来～

2006年2月12日(日)10時～16時
洗足池小学校(当日は「宝島」と呼びます)にて

(大坪 庄吾 記)



今回のテーマは「呑川の樹木」

出展団体は30あり、すべて「地域から考える地球の未来」というテーマに関係ある団体や協賛する会社です。展示だけでなく親や子どもが参加して体験出来るコーナーが盛りだくさんです。

「呑川の会」は昨年の活動の一つとして「呑川の樹木」の調査とマップづくりをしてきました。すでにニュースでその成果は報告されています。

観察会に参加して撮影したものや手持ちの作品を持ち寄り選定し、カラーコピーしたもの45枚を展示します。今回は樹木に限定しています。特に作品の中で多かった各所の桜並木コーナーも設けました。

作品には植物名と撮影した場所を表示しました。後日皆さんが散策のさいの目安としてください。今回の作品は季節が限定されたため、花が見られないものや実の美しさが出ていないものがあります。植物観察会は今後も続けますので手持ちの作品を増やしていけるでしょう。

呑川の会展示会場(2階・2-1 教室)は「おおたく環境探検隊」と共用です。このフロアではどんぐり工作や折りガミ作りもしています。

なお、作品選定の会に集まった方をもとに当日の当番を決め、案内をすることになっています。

来会のさいには感想などお聞かせください。

*前日2/11(土)10時～会場にて準備作業をします。

都合のつく方はどうぞおいで下さい。



(洗足池小学校) *駐車場はありません

池上線「石川台」下車5分

池上線「洗足池」下車7分

東急バス「笹丸」から歩いて2分

大田区環境保全課長との初懇談 開かれる

(福井 甫 記)

環境保全課 榎田隆一課長との懇談会を1月10日実施しました。呑川の会の出席者は大坪代表、工藤さんに私の3人。

呑川の会からは会の概要と最近の主要活動のうち 呑川の改修プランと樹木マップ作りのついて説明し、特に呑川の改修については是非協力し合ってよりよい呑川にすることを要請しました。

また行政・環境保全課との協働については環境保全課として協力できる部分については協力するとの了解を得ましたので、今後の活動に活かしてゆきたいと思います。

なお別件ですが 呑川の改修プランにつきましては直接工事にかかわる都建設局河川部、第二建設事務所、区まちづくり課には12月に説明しました。



可児さんから樹木名を教えてくださいました

(東六郷小学校 伊藤多津子 記)

- 東六郷小学校 自然観察クラブ -



10月21日(金) 東六郷小学校の自然観察クラブに、可児さんをお呼びしました。校庭にある樹木の名前を教えてくださいたくためです。

東六郷小には、多くの樹木があるのですが、ほんのわずかしかな札が付いていません。図鑑で調べようとしても、なかなか難しく、そのままになっていました。

先日、呑川の会で、呑川沿いの樹木名を調べあげられた可児さんのことを知りました。さっそく福井さんを通してお願いしたところ、快く引き受けてくださったのです。

当日、1時間余りにわたって校庭を回り、70本ほどの樹木名を記録する事ができました。デジカメでも写真を撮り、1本1本の名前を確認できるようにもしました。しかも単なる名前だけでなく、いろいろなお話も聞かせていただきました。

- ・ 実が付かないザクロは、日光が足りないからである。日光をさえぎっている枝(桜の木)を切るか、日当たりの良い場所に移し変えるしかない。
- ・ 樹木にとって大切なのは、光と温度と水である。
- ・ 花や実がならないのは、枝をきる時期や切るべき枝の選び方、切り方が悪いからである。
- ・ 白梅と紅梅の見分け方は、枝の切り口の色で分かる。白ければ白梅、赤ければ紅梅である。
- ・ 「東六の森」を雑木林的に(里山風に)するには、切るべき樹木を切り、自然な装いを考えていくと良い。
- ・ 草木の遊び方はいろいろあるので、子供たちに伝えられると良い。

- ・ カイズカイクキの先祖がえりが見られるので、その部分は切ってしまうことが大切である。
- ・ 等です。

今後の活動としては、単に名札を付けるだけでなく、名札から情報発信できる工夫をすることが大切であるという助言もいただきました。少なくとも「落葉樹」なのか「常緑樹」なのかの区別だけは考えさせる名札付けが望ましいと教えられました。

クラブとしても、学校としても可児さんのお話を生かして活動して生きたいと思います。特に樹木を教材として学習計画も立てたいと思っています。

本当にありがとうございました。

「いい川づくり」が「いい街づくりに」

(福井 甫 記)

江戸東京の川サミットに参加して



(東京海洋大学から月島方面)

江戸東京の川再発見実行委員会（日本橋川、神田川、小名木川などで活動している団体で2003年結成）が主催し11月6日（日）東京海洋大学越中島キャンパスで実施された「江戸東京の川サミット」に参加した。

参加者は都心の水辺を活動の場としている団体が多だけに多様で、日本橋そのものの保存グループ、小名木川に和船を運行させている団体、日本橋周辺の老舗訪問ウォークの企画団体、学生の支援グループ、タウン誌発行団体などさまざまであった。

まず

- ① 舟運復活——水系交通ネットワークの復活をめざして
- ② 川辺テラスの活性化を探る
- ③ 水辺環境再生
- ④ 東京湾と都市河川

と4テーマにわけ、各テーマの代表の基調報告があり、その後参加団体が一言づつ、それぞれの団体の活動内容・課題などを発表。最後の挨拶で大塚商会名誉会長の大塚美さんがソウルの清溪川（チョグ チョ）でその上に架かっていた高速道路を撤去し、清流を復活させた例をひき、日本橋川上の高速道路を撤去し日本橋川を復活させ、子どもが泳げるようにしたいと強く言われたのが印象的であった。

そして最後に「江戸東京の川サミット」大会宣言を採択して大会は終了した。大会宣言のなかで『いい街にはいい川がある』ということだけでなく、『いい川を作ることがいい街づくりの基盤になる』ということを確認できた』としているが、これはそのとおりと思う。

その後、東京海洋大学学生による元の東京商船大学キャンパスおよび重要文化財の帆船「明治丸」の内があり、楽しい一日であった。



つばさ総合高校環境サミット

(大坪 庄吾 記)

呑川の会も展示参加



2005年11月20日(日)、大田区羽田にある「つばさ総合高校」より依頼され、同校が主催する“第2回高校生環境サミット in Tokyo”に「呑川の会」から写真展示をしました。

この会は、高校生が集まり、環境に関する意識を高めるために展示・講演・発表などの催しを企画しています。同校始め杉並工業高校、宇都宮工業高校、大森学園など5校が参加しています。

「呑川の会」としては今まであった写真の中から「呑川の昔」「現在の呑川」というテーマで、パネル2枚に展示をしました。簡単な「呑川の会」の紹介もしました。展示スペースの関係で現在の呑川の抱えている課題にまで触れるには不十分でしたが、高校生や参観の親たちに呑川への関心を持っていただけたのではないかと思います。

展示に合わせて短時間でしたが、全体会場で白石透朗さんが「呑川の会」について報告しました。

呑川 遡上記

(福井 甫 記)

ボートで呑川をさかのぼる

12月某日 会員の園江さんのご好意で園江さん所有のボートで呑川を遡上した。(園江さんは他に大型ボートを持ち、北海道から伊豆諸島、沖縄のクルージングや魚釣りを楽しまれているそうである)。参加者は白石さん、工藤さんと私の3人。

川面を吹き抜ける冷たい風も覚悟していたが、当日は小春日和で快適。

ボートが繋留されている呑川の最下流から旭橋、藤兵衛橋とゆく。河口近くは川幅も広く護岸の高さもほどほどで圧迫感はない。一時期岸壁に所狭しと繋留されていた舟も整理されすっきりしてきた。ボートの行く手にいたキンクロハジロがボートが近づくと上流へ飛び立ち、また近づくとさらに上流へとしばらく続いた。

京急の鉄橋橋げたは工事中もあってか他の橋より1桁以上低い。高潮、大雨のときはそこでせき止められ、氾濫することはないのだろうか。頭をさげて、その下をくぐる。双流橋の上から小さな子どもが手を振ってくれた。何かといった表情で見下ろしている人もいた。

上流に行くに従って川幅は狭く、護岸は高くなり圧迫感を受ける。しかし逆に言えば深い渓谷をとる感傷がないこともない。本門寺あたりのアイビーは下から見た方がみごとだった。満潮だったこともあり、本門寺の上の鶴林橋まで上った。そこで昼食。潮の状態によっては二国・池上橋までゆけるそうだ。

呑川を水面からみて感じたことの第一は呑川と人が切り離されていること。比較的近いのは夫婦橋公園と大森南一丁目公園の2箇所、ここなら公園側から舟に降りられる。防災船着場にはなっているが、他の活用方法もないだろうか。また橋以外に陸側の人・建物との交流も少ない。



工藤さんが「呑川の四季」のビデオ DVD を制作し、その中でボートからみた桜のトンネルとか、アイビー、蒲田小学校前の桐など呑川固有の植物、さらにできればカワセミ、その他の水鳥も撮影したいとのことなので、是非みんなで協力し、つくりあげたいものだ。

そしてあらためて園江さんに感謝するとともに、今後もボート、あるいはカヌーその他の水上イベントができることを期待したいと思います。

(呑川新橋から上流)

(養源寺橋 付近)



二ヶ領ウォーク

円筒分水～二ヶ領用水遊歩道～宿河原取水堰

(白石 琇朗 記)

小春日和の 11 月 19 日 (土)、多摩川を渡った武蔵溝ノ口駅から上流の宿河原取水堰・登戸駅迄の約 9 キロを総勢 12 名が大坪代表の案内で、嬉々として歩きました。

二ヶ領用水は江戸初期の代官・小泉次太夫が多摩川の右岸に、左岸の六郷用水と同時に開削工事 (1597～1611 年) を行った由緒ある用水路なので、ウォークに参加する前から楽しみでした。先ずは溝の口駅から呑川の源流でお馴染みの大山街道を多摩川の方角に進み、昔を偲ばせる古い石造りの建物がある二ヶ領用水の大石橋にたどり着く。きれいな水量の多い水が、目の前をとうとうと流れている。上流に向かって左岸にレンガ敷きの歩道があり、魚が 2 匹ずつ泳いでいるデザインの用水柵が、



違和感なく設置されている。呑川とは大分力の入れ方が違う、うらやましいなと思った。

両側に枝垂れ桜が並ぶ、風情ある陶芸家浜田庄司氏に因んだ浜田橋を過ぎ、国道 246 号線の歩道橋を渡り右岸を歩くと、有名な円筒分水に突き当たる。このすぐ先に平瀬川が流れているが、用水は上流からこの川に 2/3 の水量を滝のように流し、1/3 は川底をトンネルでくぐり、サイホンの原理で円筒の内部に噴き上がらせて、切



り口の角度を四筋に変えて分水量を調節して流している。周りに柳と古木の桜があり、静かな雰囲気の良い場所だ。

ドウドウ音がする平瀬橋を渡り、上河原堰からの本流と宿河原堰の用水が合流して水量も川幅も大きくなった川の左岸沿いに歩き、府中街道を渡り久地駅を通り過ぎると、出会いの橋で本流と別れ、右に行くと東名高速道路をくぐる。

ここからは両側に染井吉野桜の古木の並木が多摩川の土手まで1キロ以上も続く、すばらしい遊歩道だ。昼食は、その途中にある「川崎市緑化センター公園」の芝生の上で円陣になって楽しく食べた。緑に覆われた岸边に下りて魚が確認できる小川のような水辺の遊歩道を上流に歩いていると、カワセミがスイーと水辺を通り過ぎた。この水は多摩川の水そのもので水量も多い、敵わないがすばらしい宿河原堤桜保存会が管理しているだけある。南武線と府中街道・多摩沿線道路を渡ると、用水の左岸にカワセミが羽根を休めている。200 ミリレンズは欲し

い距離だ。多摩川のニヶ領せせらぎ館を見学し、新しい宿河原取水堰の魚道を見、河川内にできた池（ピオトーフ）を活動拠点としている川崎水辺の楽校、登戸の渡し跡を経由して登戸駅に着き解散した。また桜の季節に是非散策したいと思った。



呑川 鳥類カウント

2006年1月の呑川 鳥事情

(福井 甫 記)

私は2000年から年4回大岡山から河口まで呑川全流域の鳥カウントをしている。春・秋は歩いて、夏・冬は自転車で。

今年の1月分は比較的暖かかった15日に行った。1日だけの調査で、断定的なことは言えないが、例年と異なる点がいいくつか見られたので、それを報告します。

1 全体の鳥数が例年300羽前後に対し、今年は182羽と大幅に減った。

2 減ったのはカルガモで例年の200羽前後に対し、今年は99羽。特に石川町流域での減少が大きい。河床清掃直後に減ることがあるが、11月以降河床清掃はしてないそうである。

3 冬鳥のホシハジロが今年は全然みられず(04年34羽、05年9羽)、キンクロハジロも今年は12羽と04年の35羽、05年の38羽から減っている。

4 一方これまで双流橋前後から下流域だけにいたキンクロハジロが道々橋下流に3羽見られた。



- 5 キセキレイが長栄橋下流で盛んに水中を歩き、水中をつついていた。
 キセキレイは石川町地区で高橋さんによく観察されているが、長栄橋付近では始めて見た。
 キセキレイは川の上流部にいることが多いとされるが、「都市鳥」化しているのだろうか。
 このようなことがなぜ起こったかはわからないが、これから注意してゆきたいと思う。



*石川町のキセキレイ（高橋撮影）
 長栄橋付近でも見られた

*福井さん、野鳥カウントごくろうさまです。日本野鳥の会・東京支部によると最近の東京のカモ類の減少は目だち、不忍池では89年は8000羽だったのに、05年は2000羽まで減ったというから驚きです。原因究明のシンポジウムも開かれたそうです。呑川も例外ではないようです。（高橋）

呑川 樹木観察ウォーク

（高橋 光夫 記）

上流（工大橋～池上橋）の樹木をたずねて

1月28日(土)快晴だが寒風の強い中を、
 可児・福井・折戸・清水・白石・菱沼・工藤・
 高橋の8名の参加で、工大橋を出発。

この道のベテラン可児さんの案内で、福井さんがまとめられた「樹木マップ・新版」をもとに実際の樹木を再確認しながら歩く。

そうすると工大橋ののっけから、前回あったハナミズキがなくなって、これまた前回ここにはなかったサンシュユが見つかった。こんな風に前回調査をもとに次々に訂正・追加の樹木がどんどん書き込まれていった。

冬は咲いている花が少なく、葉も落ちているものが多いが、だからこそ目だつ赤い実が多かった。カマツカ・クロガネモチ・ピラカンサス・・・
 樹木と同時にこの時期にこそいるカモ類も、今年は数少ないがお互いに確認しあった。

また「久が原2丁目広場」では呑川の流れを形取り、橋が描かれ、それぞれの橋の名前が表示されていたり、舟形の花壇に木が植えられていたり、「石川町1丁目広場？」の呑川物語プレートなど、あらためてそれぞれの公園の特徴も興味深いものがあった。



今回は池上橋までであったが、ここから先の樹木はどんな展開を見せるであろうか楽しみである。次回も予定されています。ぜひみんなで歩いてみませんか・・・

次回樹木調査ウォークは 2月18日(土)です

樹木観察ウォーク(中流域)のお知らせ

上流域の観察ウォークに引継ぎ 中流域でのウォークを実施します。1月の上流域ウォークは欒・桂等の樹形と久が原久根児童公園のくろがねもちの赤い実の見事さはありませんでしたが、さすがに花は蟬梅だけと少なかったですが、今回はいろいろな梅やその他早春の花が咲き出している頃でしょう。



1. 実施日 2月18日(土) 10時集合 15時前後解散

2. 集合場所 池上橋(呑川と二国との交差点)

池上駅から徒歩10分

3. コース 呑川を夫婦橋まで下る

天気が微妙な場合は8時から8時30分の間に福井宛(3729-8827) 電話ください。メール利用者へはメールします。

(ウォーキングのあとはゆっくりお茶を・・・)

<編集後記>

・編集者が交代制になって、私も今回が初めて・・・どう親しみやすい紙面にするかで気がつかれました。

その中で気になったのは、それぞれの記事の内容を示す写真が少ないことでした。

しかたなく絵を挿入して、その内容の雰囲気になるべく楽しく表現するようにしました。

しかしやはり写真があるのに超したことはありません。

- ・福井さんの調査で呑川のカモが減っていることがわかりました。実はこの1月、オオハクチョウの飛来地・浅所海岸(青森)とその近くの温泉に出かけたのですが、いつもは1000羽来るのに、今年は300羽とか・・・なにか大きな環境異変が起きているようで心配です。(高橋光夫)



浅所海岸のオオハクチョウ・・・羽を広げて雌にアピール



雪国の露天風呂はやはり寒い